歴史地震
第34号(2019) 221頁

［講演要旨］

伊勢湾・湾内におけるチリ沖地震津波の被害実相［伊勢市・明和町］

新田康二（三重県立伊勢まなび高等学校）

§1. はじめに

1960年5月24日（土）に襲来したチリ沖地震津波は，三重県内でも太平洋岸の漁村・町に大きな被害をもたらしたが，伊勢湾・湾内においては，三重県内においても，ほぼ注目されてこなかった，三重県の集約した被害状況からほぼ欠落した事実が，多気郡明和町山大淀で体験者たちの証言から，判明しだしている．南海トラフ巨大地震に伴う大津波の発生に関して，三重県の伊勢湾岸に居住する市民たちには、全く切迫感がないというのが事実である．かかる点で、チリ沖地震津波による被害の実相を解明し，1944 年 12 月 7 日の昭和東南海地震に伴う津波とともに，海側から遠く離れて住んでいても津波被害にあるという「我が事」を形成したいと考える．

§2.太平洋岸における被害

チリ沖地震津波における三重県の被害状況（『三重県地震対策基礎調査報告書　昭和四八年二月　三重県』）

		尾鷲市	海山町	長島町	南島町	南勢町	鳥羽市	磯部町	浜島町	阿児町	大王町	志摩町	紀勢町	福野町	津市	松阪市	合計
人的被害		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全壊	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	半壊	0	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85
建物	流失	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	床下浸水	674	716	674	413	338	92	0	2	0	80	15	262	1	0	0	3267
被害・棟	床下浸水	351	303	337	625	323	415	5	65	0	100	165	144	0	19	36	2885
	一部損壊	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	非住家被害	30	15	0	17	200	43	0	0	0	300	240	56	0	0	0	901
	水産関係施設	0	16	2	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
被害	水田被害	33	0	0	23	93	56	12	6	2	10	0	3	34	20	0	292
被害ha	畑農作物被害	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	開墾水	0	0	0	13	61	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	92
	道路橋梁・か所	0	5	0	1	6	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	16
	堤防護岸・か所	0	1	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	電熱消毒・か所	0	0	0	0	3	11	2	2	0	0	0	5	1	1	0	25
	農耕地・か所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	農産加工・か所	98	53	12	6	31	3	0	0	0	0	0	14	0	0	0	255
	水村流失・㎥	400	2000	2280	0	1150	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0	5830
船舶	流失・隻	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	沈没・隻	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
被害	被損・隻	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	15	0	0	7	28
被災世帯数・戸		675	703	674	413	338	92	0	2	0	80	15	262	1	0	0	3355
被災者数・人		2841	3708	3033	2261	1683	232	0	8	0	245	35	1793	5	0	0	15796
消毒施設・か所		4	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	14
応急飲料水・戸																	100
応急飲料水・戸																	55
漁船被害・隻																	72

各地の家屋被害（昭和35年５月26日付け河北新報より）

	全壊	半壊	流失	床上浸水	床下浸水
岩手	587	707	690	3560	2322
福島				6	59
青森	24	91	8	1476	2490
宮城	1206	889	307	8086	6097
北海道	172	162	248	2456	822
茨城					1
千葉		1	1		2
静岡				1	234
愛知				2	20
三重	2	85	1	3202	2890
和歌山	2	10		896	1680
徳島				1055	1032
高知	9	46	2	591	123
鹿児島				595	1145
宮崎				168	145
熊本				3	13
兵庫					70
合計	2002	1991	1257	22097	19555

1973 年2月に発表した『三重県地震対策基礎調査報告書　昭和48年2月　三重県』[1]の「チリ沖地震津波における三重県の被害状況」表（上）と，近年内閣府が発表した『チリ沖地震報告書』（下）との間には，数値に微妙な齟齬がある．以下の数値は三重県の報告書をベースにして，話を進めていきたい．太平洋岸の被害は、南から順に，尾鷲市，海山町・長島町（現・紀北町），紀勢町（現・大紀町），南島町・南勢町（現・南伊勢町），浜島町・志摩町・大王町（現・志摩市），鳥羽市での建物被害が顕著である．漁船被害は，尾鷲市，紀勢町，南勢町，鳥羽市と，伊勢湾岸の松阪市（旧三雲村との境の三渡川を津波が遡上したため）が出ている．一方，人的被害は「0」 となっているが，伊勢市での死者1名を確認している．

§3.伊勢市内における被害

1974年7月7日の「七夕豪雨」（地元の命名、2017 年 10 月 22 日の台風 22 号時の大水害の降水量は，この時の降水量を上回った）で大水害を蒙った河崎は，勢田川の改修を進め、かつての江戸時代の風情を残した「宇治山田の台所」のイメージを一新した。1960年当時の町の風景は、荷物を川から運搬しやすいように、川岸から倉庫までトロッコで引き込むなど、勢田川に家屋が迫り出し犇めくように甍を連ねた町だったが、チリ沖地震津波で大きな被害を蒙らなかった．しかし，河崎の上流・岩淵の桜橋でボートの塗装中の50代の男性が、橋脚にぶつかって死亡されている。

§4.明和町山大淀における被害

明和町における被害が，近年のFWの証言から，被害の実相が明らかになりつつある．

この地域に住む住人たちは，上の世代よりチリ沖地震津波のひとをしばしば昔語りの一つとして聞き伝えおり，「3・11」の時は「津波が必ず来る！」と身構え対応することが出来，防災・減災意識の高い町づくりの基盤になっている．

大淀漁港においては，繋留されていた漁船の全てが流失し大きな損害をだしたこと．自宅が床上浸水し，津波によって地面が削られたこと．等が確認することが出来た．1854（嘉永七・安政元）年十一月四日（新暦 12 月 23 日）の安政東海地震・津波により，海岸部より300mにわたり津波で地形が削られた[2]，ことなどからも、歴代のイベント毎に被害が想起される地形・地点であることが判明した。大淀漁港の凹地形は、津波湾による可能性が高い．

§5.おわりに

当時の大淀小学校 6 年生 106 名全員が担任教師の引率の元、堤防上から津波観測したという「狂気の沙汰」と行っても良い証言も得ている．かかる点で，地域住民への啓発活動をより強力に進めたい．

引用文献:

1）三重県，1996，『三重県史』現代3
2）蝦名祐一・佐竹健治，2017，帝国大学理科大学の調査資料にみる津波記録・伝承，第 34 回歴史地震研究会　つくば大会　講演要旨集